



ZENSOUSEI 21th

平成11年6月8日第三種郵便許可(年4回2・5・8・11月の10日発行) そうせい第172号平成28年2月発行

SOUSEI

2016.02 No.172

全国書洞宗青年会



「特集」

つくる人の笑顔
食べる人の笑顔

「特集」つくる人の笑顔 食べる人の笑顔
①全国曹洞宗青年会が発信する「食」



精進料理フェスタ

全国曹洞宗青年会にとって「食」は大きな一つのテーマです。それは戦後から昭和、平成と遷る世の中で「飽食の時代」「ファストフード」という言葉で食が表現され、その中で現代社会が置き去りにしたものを、私たちが発信し続ける「使命」なのかもしれません。

今回は、仏祖や諸先達が発信されたものを継承する第21期全国曹洞宗青年会の「食」を通じた発信と活動、また現在進行形で「食事作法の精神」「子どもたちの食の貧困」に真正面から取り組む方がたの活動を特集します。

in 總持寺

平成27年10月18日

平 成27年10月18日、神奈川県横浜市鶴見区の曹洞宗大本山總持寺を会場に「平成27年度 禅文化学林」が開催されました。

の相承」として、また、禅の作法に則り精進料理をいただくことのみならず、青年僧侶との交流を通して広く一般の皆様にも「相承」の精神を感じていただけるよう、「精進料理フェスタ in 總持寺」の開催準備を進めてまいりました。

今年度の禅文化学林は、大本山總持寺二祖峨山禪師様の六五〇回大遠忌に当たる本年、山内で開催される「鶴見のまちの大遠忌」に併せ行いました。峨山禪師様は、お釈迦さまから師の瑩山禪師を経て自らに、そして弟子たちに教えを伝えていく「相承」の想いを非常に大切にされました。全国曹洞宗青年会(以下、全曹青)は、この想いを現代に受け継ぐ私たちが、食の観点から「食事を通していただく命が、私たちの命となって繋がっていく命

前日(10月17日)午後2時に集合した各管区・曹青会の出品団体の皆様や全曹青参加者は、安達会長からの御礼の挨拶と簡単な全体打ち合わせの後、翌日の下見や、各配役の打ち合わせを行いました。また、大本山總持寺の役寮諸老師各位や大衆の方がたのご助力をいただき、軽トラックを借りお借りしたテントや器物を仏殿前や放光堂に運びました。

当日（10月18日）午前5時30分、總持寺

仏殿前に集合。前日作成した入場ゲート
を運び、旗を準備。食事をお召し上がり
いただく場所としてビニールシートと赤
毛氈を敷いた上に机を準備。準備万端整
えてから、午前9時30分からの「二祖峨
山禪師献供諷経」に向かいました（献供諷
経法要の記事は13ページをご覧ください）。

法要と、大祖堂前での記念撮影を終え
ると「既に長蛇の列が来ています」との
連絡をいただき、関係者は急いで改良衣
絡子に着替えて仏殿前に移動。總持寺に
お参りされ本日のイベントを現地で見つ
た方、予め全曹青ホームページ『般若』や

『全曹青facebookページ』、広告チラシな
どを通じ精進料理フェスタをお目当てに

来場された方など、100人近い方がた
が既に開始を待っておられました。

午前11時、原事務局長の宣言を合図に
「精進料理フェスタ in 總持寺」開始。仏
殿左側の入場ゲートをくぐった来場者は、
まず受付でお盆を受け取り、各地から出
品された6種類の精進料理をお盆に揃え、
仏殿向かって右側の赤毛氈と机が用意さ
れた食事場所に移動。また赤毛氈に座る
のが大変な方には、少数ですが椅子での
お食事席も準備いたしました。今回精進
料理をご提供いただいた加盟団体と料理

はこちら。

- ・中国管区青年会「とろろ焼き」
- ・四国管区青年会「ハーブ塩うどん」
- ・兵庫県第二宗務所青年会

- 「黒枝豆とトウモロコシのかき揚げ」
- ・九州管区「豆乳プリン」
- ・東海管区「禅パスタ」

- （冬瓜と豆乳のクリームパスタ風）
- ・東北管区「おくずかけ」

（当日テントでの提供順）

全国から参集した各管区・曹青会が腕
を振るい、各地の名産品や伝統を活かし

た以上の6品の精進料理がお膳に揃うと、
無料でこの精進膳が提供されることに驚
く来場者も大勢おられました。

来場者の方には向かい合いの2列の席
が埋まるまでお待ちいただいた後、食事
作法の説明をいたしました。その後、箸
袋に書かれた『五観の偈』を全員でお唱え
してから食事をいただきました。調味料
を極力抑えた滋味広がる精進料理を、一
つ一つの器を両手で持ち丁寧に味わう。
普段何気なく「済ませてしまおう」食事も、
作法に則り感謝の気持ちを新たにいただ
くことで、精進料理と禅宗の食事作法の
意味、また「命をいただく」ことを改めて



受付で参加者にお盆を手渡し声を掛ける安達会長



ハーブ塩うどんを準備する四国地区曹洞宗青年会テント



受付でお盆を受け取り、各地の精進料理を順に手渡し



「お箸の持ち方教室」にもたくさんの見学者

ご理解いただく機会になったと思います。晴天となり気温も暖かな秋の日差しの中、野点^{のど}でいただく精進料理という趣向も珍しく、来場者の方がたは精進料理の余韻に浸りながら、作法の意味や普段の食事とは違う点を参加者同士語り合い、また青年僧に尋ねられていました。食事だけでなく、考え、学び、感じていただく機縁になるよう企画した私たちも、来場者の皆様の声に嬉しく思いながらお答えさせていただきます。

また、会場では全曹青の活動紹介や頒布物の販売なども大盛況、お箸の持ち方教室では、実際にお箸を使い豆を器から器に移動させるだけでなく、作法や心構えも学べることもあり、参加者の周りにも足を止め説明を聴く方がたが大勢おられました。

ある程度の人数が集まって作法に則り食事をすることもあり、午前11時30分頃には順番待ちの列が150人を超え、仏殿南西の玉兔門^{ぎよくとん}まで伸び、整理券を配布し番号順に再集合の時間目安をお伝えするなどの対応をいたしました。

また、裏方は食器やお盆を運ぶ係、ひたすら食器を洗う係(今回の食器は環境にも配慮し、長野県上田市の龍光院様からお借りしました)、テントの中で精進料理を作る係、来場者を案内・誘導する係、それぞれが休む間もなくそれぞれの任に没頭しました。

最後方で整理券を受け取られた方がた

が食事をされたのが午後2時前。それ以降の希望者には、精進料理が全種類揃わないかもしれないことを事前に伝え、整理券を持たない方がたにも並んでいたいただきました。

午後2時30分頃、食事は全てのテントで配布完了。以降に来られた方がたにも、全曹青で用意した「精進クッキー」や、数量を多く準備いただいた九州管区の「豆乳プリン」「さつまいものレモン煮」を配布。大盛況の午後3時30分頃、精進料理フェスタin總持寺の開催を閉じさせていただきます。

若いお坊さんと直接話せる機会とあり、仏教の事、精進料理の事、お互いの地元の事、全曹青や各地の青年会の活動の事。来場された皆様は、様々な話題を質問したり、語りかけておられました。青年僧侶も、真剣に聴き、真剣に答えておりました。全曹青の創設以来のテーマである「大衆教化の接点を求めて」に通ずる光景が、大本山總持寺の仏殿前にはあったと感じました。

最後になりましたが、多大なるご助力をいただいた大本山總持寺の関係諸老師・大衆の皆様、全国からこの日の為にお集まりいただき、ともにこの法会・イベントを円成させていただいた加盟管区・曹青会の皆様、そして来場いただいた全ての方に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

文／広報委員長・宮入真道



精進料理フェスタを終えて

東北管区／宮城県曹洞宗青年会副会長・清水大伸

「東北はひとつ」の想いを再現するよう東北各曹青会から人参や大根等の食材をご提供いただき、宮城の郷土料理「おくずかけ」を提供しました。準備で多少の混乱はありましたが参加者それぞれが様々な活動で培った経験を活かし臨機に対応しました。何よりもたくさんの来場者が仏教、禅に触れていただけた素晴らしい企画と感じました。



青空の下、精進料理をいただく参加者

兵庫県第二宗務所青年会／近畿管区理事・岸哲生

今まで管区大会としての禅文化学林は何度もありましたが、各管区が集まり、協力して開催できたことが、全曹青事業として大変意義があったと思います。また、材料は安達会長の住職地、長楽寺の檀家さんが生産している黒豆を使用しました。自分たちが作った黒豆からできた品を見て大変感動されていました。寺檀一体となって円成できたと思います。



列に並ぶ参加者に整理券の説明をする原事務局長

中国管区／中国管区理事・湯浅英利

調理が簡単で美味しい精進料理をご紹介できないものかと考えた末、メニューは「長芋とろろ焼き」になりました。この料理は誰もが親しめる味で、自分でも作りたくなる一品です。大本山總持寺様にて、精進料理を通じて多くの来場者様に私たちの想いを伝えられたことは、何よりのよこびです。



全て配布を終え、九州曹洞宗青年会で記念撮影

四国地区曹洞宗青年会／会計・濱田道圓

四国地区曹洞宗青年会では、香川県の喝破道場にて作られております、ハーブうどんを提供させていただきました。私は今回初めて全曹青の活動に参加し、他の全国の各青年会の活動を直に見聞でき、また調理場で各青年会員と協働し交流することができたと思います。たくさんの御勝縁を今後の四曹青の活動に活かしていきたいと思っています。

曹洞宗専司御用品承り



〒604-8074 京都市中京区雷小路通三榮南入
電話 075-221-3033
FAX 075-221-4640

心をかたちに 感動の旅!

ビーエス・グループ会

〔幹事〕東京本社

〒105-0004 東京都港区新橋三丁目2-7 恭和ビル2F
TEL (03) 3502-4041 FAX (03) 3502-5416



精進料理教室「味来食堂」を通じて

第21期スローガン『笑顔の君と おなじ空を見上げて』を基とし、宗門僧侶と一般檀信徒が繋がりをもてる場として教化法式委員会では精進料理教室「味来食堂」を展開しています。

全国曹洞宗青年会創立40周年記念事業の一環として始まったこの事業は、広く大衆教化をしていくことを目標とするなかで現代社会において非常に適した機会であると実感いたします。

情報が目まぐるしく錯綜する社会で、実態が見えない情報ばかりが先行し、一体どれを信じれば良いのか判断し難く閉塞感が蔓延するように感じる昨今、食に関しても信頼が損なわれる出来事を数多く目にします。安心安全な食を模索する中、近年では「和食」が世界的にも注目を浴びており、「和食」に通ずる精進料理を展開することは非常に意義があると言えます。

宗門僧侶が長年培ってきた精進料理には、安心安全かつ健康的な食材と調理方法を用いながら、そこに曹洞禅の教義が喜心・老心・大心といった心構えとして宿り、調理からいただくことに至るまで、作法・所作等随所にわたり詰まっております。特に基本となる「出汁」をひくという点に重きをおき、自然を尊び四季折々の食材に親しむ健康的な和の食事である精進料理と禅の教義の魅力伝えていきたいと考えました。

これまで東京都内で主に一般的な料理教室を使用し、小規模ながら複数回開催する中で多くの方に受講していただき、「精進出汁」を用いたメニューを中心に曹洞禅の教義を交えながら教室を展開してまいりました。そのことよってもっと精進料理を学びたいという思いは基より、坐禅とはお寺とはどのようなものか、更には食に通ずる曹洞禅の精神を学びたい等、一般の方をはじめ料理の場において第一線で活躍されているプロの料理家の方がたからも様々な関心を持っていただいております。

また、この度ご縁をいただき「味来食堂」を通じて、マガジンハウス社より取材撮影のご依頼を受けました。私が取材に対応させていただき、雑誌『クロワッサン』10月号の減塩特集の中で4ページにわたり精進料理の記事が掲載されました。特に禅の食に対する心構えが共感を得るものでありまして、このように全国誌に取り上げられた事は改めて社会からの注目度の高さを実感させられるものでした。

全国曹洞宗青年会発足時の大衆教化の接点を求める理念に基づき、今後更に「味来食堂」を広く衆生に展開する中で現代社会に曹洞禅の裾野を押し広げる貴重な接点の場となるよう、より一層布教教化に邁進して参りたいと考えます。

文／教化法式委員長・河口智賢

平 成27年11月3日に「第4回つるみ夢ひろば in 總持寺」が大本山總持寺で行われました。

全国曹洞宗青年会では、当行事の開催趣旨「横浜・鶴見の文化や歴史に親しみ、東日本大震災の被災地と絆を深める」に賛同し、その活性化を図る為、総合企画委員会と災害復興支援部の2ブース出展許可をいただき、被災地との絆を深めるため協力をさせていただきました。

当日は早朝6時半より出展ブースに必要な機材や調理器具を搬入し、ご来場の方がたに少しでも興味を持っていただけるよう、全員で意見を出し合いながら機材の配置などを準備。午前9時より仏殿前で被災地復興祈願・無事円成祈願の誦経を全員でお勤めし、午前10時より第4回つるみ夢ひろば in 總持寺の開始となりました。

総合企画ブースでは、被災地に想いをよせていただくため絵馬への記入スペースや頒布物の販売、「筆箋(写経)スペース」を設けました。委員からの「合掌し心を落ち着かせてからお書き下さい」との声に戸惑いながらも合掌される方がほとんどでしたが「合掌してから書き始めた事で、周りのざわめきが心地よい音になった」「集中できた」など『書』の面から被災地へ想いをよせていただけたのではないかと思います。

災害復興支援部ブースでは、自然災害に備え、食料や備品を保存しておく施設『ストックヤード』の重要性をご来場の方がたにより理解していただくため、解りやすい

第4回つるみ夢ひろば in 總持寺 ストックヤード食材の供出で備えの重要性を周知

平成27年11月



チラシの配布やストックヤードに設置されている災害時必要な備品の展示、また災害時を想定し炊き出しステーションを使って汁物の炊き出し、アルファ米の炊き出し実演などを行い、午前10時から午後2時までの各1時間ごとに200食分を用意しましたが、当初の予想を大幅に超えるご来場者で常に長い行列が出来、準備した合計1,000食分の無料炊き出しを予定の時刻よりも大幅に早く全て提供いたしました。

なかでもご来場の方がたが興味を持たれていたのが、災害時火を使わずに水から炊く事の出来るアルファ米の炊き出し実演で「米はどうなっているのか」「箸や容器やしゃもじ、ふりかけまで付いているんだ」「水で炊いて美味しいのか」など、身を乗り出して質問をされている様子がとても印象的で、実際に食べていただくと「思っていたより美味しい」「米が甘くてびっくりした」「これなら毎日食べても飽きない」など、来場者の『非常食』という考えを良い意味で裏切り、『食』の面からストックヤードの重要性と被災地への想いをよせていただけたのではないかと思います。

前日は雨が降り続き天候が心配されましたが、開催当日に大本山總持寺の緑豊かな境内から見上げる空は、皆の想いが被災地へ曇り無く届くような澄みきった青空のなか、人の波に逆らって歩くことが難しい程のご来場者で埋め尽くされました。

文／広報副委員長・鬼頭大輝

「特集」つくる人の笑顔 食べる人の笑顔
 ② インタビュー子どもたちを笑顔にする食

『いづも食堂』とこころ活動

今期のスローガン「笑顔の君と おなじ空を見上げて」と今号の特集である「食」を考えた時、子どもたちの笑顔が真っ先に頭に浮かびました。そして最近関心をもっていた、「子ども食堂」という活動について今回お話を伺ってきました。

子ども食堂とは、貧困など様々な理由で、家庭でご飯を満足に食べられない状況にあることにも食事とだんらんを提供しようというもので、子ども1人でも気軽に立ち寄れる食堂です。

場所は、東京都大田区蓮沼駅近くの、「気まぐれ八百屋だんだん」というお店です。「だんだん」という言葉に親近感を持った私、なぜならこれは私が住む島根県出雲地方の方言で「ありがたい」という意味だからです。そしてお店の店長である近藤博子さんも島根県出身、さらに親近感が湧いてきました。

「いづも食堂」を始めたきっかけ
 5、6年前に、近所の小学校の副校長先生から、今の時代のこともたちのことを聞く

機会があり、ひとり親家庭の親が精神的な病を抱えていると、食事も作れなくて、給食以外の食事（晩御飯と翌朝のご飯）をバナナ1本で済ませる子どもがいることを知りました。

朝、子どもを起こすこともできず、学校に送り出せない、また、仕事をしているひとり親の場合、朝早く仕事に出て、夜遅くに帰ってくるケースも多く、子ども1人で晩御飯を食べることも多いと聞きました。

この飽食の時代にバナナで済ます子どもがいることが信じられませんでした。1人で食事をしなければならぬ子どもがいることに切なくなつたのです。そして地域の子どもは、地域で守るのが役目だと思ひ、こちらの「だんだん」でご飯を食べられるようにすることを先生に提案しました。

「子ども食堂」を行って感じていること

活動し始めてみると、届いてほしいこともたちには、なかなか情報が届かないことや、困っていることものの情報は、個人情報保護法の壁があり、私たちには手に入りにくい社会であることも痛感しています。最初は、「だんだん」に来ていたお母さんたちの口コミで子どもたちが来ていましたが、それぞれの事情は、分かりません。

今は、活動し続けたことで周囲の理解も増え、小学校にチラシを貼らせてもらえるようになりました。メディアに取り上げられたことで、情報も届き、ひとり親家庭の子どもたちも来ていますが、困っている子どもたちをどのようにして、来てもらうこ



両大本山御用達
 梅花流法具販売指定店
 法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

梅金商店
 株式会社
 (全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本 社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
 (大須交差点東北側)
 TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904

洗える高級新素材専門
 全国御寺院様専門、御自坊出張販売
 スペシャルオーダーメイド システムメーカー

御誂 法衣・袈裟・白衣・作務衣・頭陀袋 専門処
 創業 60余年 (株)坂口衣芸工房

〒501-6236 岐阜県羽島市江吉良町1115番地
 Tel 058-392-3121 Fax 058-392-5589
 http://www.s-samue.com E-mail info@s-samue.com
 多少にかかわらず社員一同お待ちしております

とができるかが、20〜30あることも食堂の課題となっています。

これからは、いろいろな立場の人のネットワークが大事だと思います。守秘義務という事で情報を抱え込んで、こどもたちを守る時代ではないと私は思っています。様々なスキルのネットワークを駆使して、最悪の状態にならないようにすることが重要な時代だと感じています。こどもたちとその背景にいる親の状況は、ひとりひとり違うし、学校や地域の抱える問題も違います。やはり、その場その場に合った活動が大事だと思うのです。だから、近所の学校の校長先生、児童館の館長さん、児童養護施設のシスターに話を聞きに行き、今の社会の抱える問題などを具体的に知ることから始めました。自分が働きながら子育てをしていた時代と違うことにも気が付き、その時代に合ったやり方をしていくこ

とが大事だということにも気づきました。そのためには、民生児童委員、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、教員、それぞれの立場の方がたとのネットワーク作り、信頼関係作り、横や斜めの関係作りを積極的に展開する必要があります。

お寺に期待すること

お寺の存在は、昔から地域の重要な立場を担い、相談事は、和尚さんに……という存在だったと思います。もう一度、地域の中心的な立場を復活していただきたいと思っています。地域の問題、こどもたちの問題をみんなで話し合える場所として、お寺を使わせていただくとか、こどもたちが気軽に集まれる場所として開放していただくとか、中学生や高校生の居場所の問題も現代社会が抱える問題の一つです。こどもたちがホッとできる場所、「助けて」と言える場所、悲しみや、悩みをこぼせる場所、大人も相談できる場所、そんな場所としての期待は大きいです。

ご近所の関わりを復活させるためのきっかけ作りを担っていただきたいのです。お寺というのは、なぜか、ホッとでき、素直になれる場所だと思います。日々の食事に



近藤博子 ● こんどうひろこ
こども食堂主宰・気まぐれ八百屋
だんだん店主。



関しても、一汁一菜という考え方を中心に
もう一度、感謝していただくことの大切さ
を伝えていただける場所であり、その教え
は深いと思います。

最後に

今の社会は、「助けて」と言えない、言いにくい社会のようです。つらい時には「つらい」。苦しい時には「苦しい」。楽しい時、嬉しい時、いつもその時の気持ち素直に言える社会にしたいのです。大人の責任で、こどもたちが生きやすい社会にしたいかな
いと日本の明るい未来は無いと真剣に思っています。

聞き手／広報副委員長・西古孝志

守り伝えられし大切な伽藍、
私どもの技と経験がお役に立てれば幸いです。

社寺建築のカナメ

新築・改修・屋根工事・耐震

株式会社 **カナメ**
<http://www.caname-jisha.jp>

■ 本社	栃木県宇都宮市平出工業団地38-52	電話：028-663-6300
■ 名古屋支店	愛知県一宮市森本4-15-23	電話：0586-71-2882
■ 岡山営業所	岡山県岡山市北区今8丁目13-13	電話：086-245-2541

「特集」つくる人の笑顔 食べる人の笑顔 ③ 禅寺×茶懐石



僧侶と料理人が協力して提供する「行鉢」の作法と心

富山市・最勝寺「最勝寺×懐石万惣 Presents 行鉢 GYOHATSU」

平 成27年12月17日、富山県富山市の最勝寺様で「最勝寺×懐石万惣Presents 行鉢 GYOHATSU」が開催されました。

昨年の4月から毎月開催されているこの「行鉢」は、参加者が実際に応量器（購入し持参かレンタル）を用いて、単（坐禅をする一段上がった台。参加者の手作り！）の上で坐禅を組み、修行僧と同じ作法で食事をいただきます。この日は16人の参加者と、精進料理の提供と浄人（禅堂内で食事の給仕を行う役）として茶懐石料理人の中尾英力さんら3人と最勝寺の谷内良徹副住職が参加され、計20人ほどで行鉢を行いました。

中尾さんは、幕末の大老井伊直弼が書き遣した『草庵行鉢式』という草庵での懐石に禅の食事作法が取り入れられた書物の内容を、現代に甦らせようと取り組まれています。この書の中で井伊直弼は、禅の食事作法が茶席の作法の中でも最も大切なものの一つとし、行鉢を図解入りで説明し、免状皆伝の最終段階に位置付けていたそうです。150年以上上の目を見なかつたこの書とその中に宿る禅の精神を現代に復活させるにあたり、中尾さんは実際の行鉢が不可欠と考えていました。谷内師も一般の方を対象とした禅の食事体験会を定期的に開きたいと考えていたところ、坐禅会などで交流のあった二人は意気投合し、共同で企画しました。谷内師は会場の提供とともに自ら手本となり、行鉢の作法や意義を参加者に伝えます。中尾さんは典座役として精進料理の提供とともに浄人としても参加し、作法に従って

食を参加者の元へ届ける役目を担います。

午後7時30分、雲版の音を合図に禅堂の形に整えられた一室に進んだ参加者は、単の上で坐禅を組み、「展鉢の偈」「十仏名」などをお唱えし、予め教わったように、初めての方は谷内師や隣の複数回参加者から教えられながら、応量器を開いていきます。慣れない手つきであっても、大事に、心を込めて応量器を徐々に浄縁の上に広げていく様子は、普段私たちが何気なくいただいている食事とは趣が全く異なります。

この日の食事は、中食（お昼の食事）の作法で行い、喫食役（かじりやく）の参加者の「香飯、香汁」の声を合図に、浄人が参加者の前に進み、参加者は合掌低頭の後にこれを受けます。漬物、別菜まで配り終わると、谷内師の槌砵（つちび）の音を合図に「五観の偈」「生飯の偈」「擎鉢の偈」をお唱えし、生飯（米七粒を自らの頭鉢のご飯の中から分けて刷の先に乗せ、有縁無縁生きとし生けるものに捧げる供養）を行い、頭鉢を目の高さまで捧げて食事を始めます。「再進（おかわり）」、「収生（生飯を回収）」、「香湯（お茶）」、「浄水（お湯）」の合図とともに参加者は作法に則り行鉢を進めていきます。浄水を使い応量器を洗うと、「折水の偈」をお唱えし、折水（洗鉢した水を大地に還す）を行います。そして応量器を元通りに戻すと合掌一礼して持ち上げ、浄人が浄縁を拭いて行き、最後に「後唄（ごばい）」のお唱えを聴いて単から下り、1時間半ほどの行鉢は終了となりました。

普段の食事に1時間半も掛けるというこ

とは先ず無いと思います。しかし、作法や、作法の根底にある精神を学びながらいただく食事は、参加者、また料理を提供する側にとっても掛け替えのない時間であると感じました。取材者である私も、浄人補助のような役割でほんの少し関わらせていただき、この時間を共有させていただいたことを非常に有難く感じます。偈文や作法の解説を途中で話される中で谷内師は、「飯の器、汁の器、一つ一つの器を両手で持ち、できるだけ静かに扱います。普段の食事と比べると面倒に感じるかもしれませんが、こうして両手を使っていたことで、料理と正面から向き合わなければいけません。食事という命と向き合う行いを流れて済まさず、それぞれの器の食そのものと丁寧に向き合うことが大切です」と話されました。

私たちが作法として身に付けたものの根底にある『典座教訓』や『赴粥飯法』の精神が、現代社会の混乱と情報過多の中で実は求められているのではないのでしょうか。

「時にはこの会に横浜市をはじめ他県からも来られる方がおられます。今、茶道はともすれば『道楽』になっている面もあります。しかし、そうではない『茶禅一味』という言葉にあるようなものを求めて、私たち茶道を学ぶ者もこちらに参加しています」と中尾さんは語られました。

毎回広い年齢層、様々な職種の方が集まるといって「行鉢」、今回も寺院関係者、茶道関係者のほか、現代医学や東洋医学の専門家の方なども参加されていました。この求



道の心に応えるべく谷内師は、時には説明、時には法話の形を用い、懇切丁寧に参加者の方々に話されていました。また、進行用のプリントには、全ての作法や偈文に分かり易い解説を示すとともに、この「行鉢」について、「食べるという行為を『当たり前』にしないという仏祖の信念に則り、反省、感謝、節制、誓願を念じて、食事に打ち込みます。その行いによって、作る人、食べる人、食材そのもの、それらが一体となり、偏りなき禅の世界に包まれます」などと記されています。

谷内師と中尾さんの繋がりに生まれた「行鉢」は、アイデアや工夫の積み重ねによって、地方の一寺院としては異例の「行鉢」をほぼ再現したものとなりました。僧堂での修行の日々の中で、私たちは食事を作ってくださる「典座」や給仕をしてくださる「浄人」の助けを得て、坐禅を組んだままの状態です。各地の寺院に戻り、本式の行鉢は難しくなったとしても、私たち仏道修行者はこの根底にある精神を伝え、実践に導く責任があるのではないのでしょうか。実際の作法を通してでも、法話や説明でも伝え方は様々だとは思いますが。寺院の4割が数十年で消滅や合併などにより減少すると言われている今、社会から求められる仏法とは、寺院とは何なのか？今回取材させていただいた行鉢に参加された方がたの終了後の笑顔の中に、その答えの一端を垣間見たような気がいたしました。

文／広報委員長・宮入真道

特集のおわりに

今回の特集「作る人の笑顔・食べる人の笑顔」、そこには食と人が密接に関わっています。食が持つ力、そこから生まれる私たちの表情がもたらす力、皆様に感じていただけたでしょうか？ 私たちの喜怒哀楽から生まれる色いろな表情、その中でも笑顔は特に力があると思います。

こども食堂を運営される近藤博子さんは、今期の全曹青が掲げるスローガンを見て「いい言葉ですね。みんながこんな気持ちになつたら最高ですね。苦しいときでも悲しいときでも、ふっと笑顔になる瞬間がある、それが力になる」と仰いました。

精進料理フエスタin總持寺においても、秋空の下、多くの表情が溢れていました。準備する私たちの顔、来場して下さった方がたの顔。全てが笑顔ではなかったかもしれませんが、準備に慌てる顔や長い行列に疲れた顔もあつたでしょう。けれども、やはり、笑顔が一番溢れていました。

味来食堂でも、行鉢でも、こども食堂でも、多くの表情、特に笑顔が溢れています。笑顔だと食事も楽しく、美味しく感じます。きっと皆様もそう感じることもあるのではないのでしょうか。食を通して人とつながり、そこに様々な表情が生まれる。皆様も色いろな場面で色いろな方がたとの食事を通して、笑顔になつたり怒つたり泣いたりすることでしょう。

そしてそこには、一緒に食事をした人の表情以外にも多くの表情があると、今回の特集を通して気づきました。それは例えば一生懸命に大根を作ってくれた人、ゴシゴシと洗ってくれた人、気を付けて運んでくれた人など数え上げればきりがありません。そういつた方がたの表情もあることを忘れてはなりません。その表情一つ一つが、私たちの命となっているのです。

食事の時に命をいただいていることに感謝することはもちろん、一緒にいただく人または一人で食べる場合でも、多くの表情を感じていただければと思います。

笑顔の君と、おなじ空の下、今日も命をいただきます。

文／広報副委員長・西古孝志



福山諦法猊下と全曹青第21期の三役一同

大本山永平寺
第21期三役が拝登
猊下よりお言葉を賜る

平成27年10月6日、安達瑞樹会長、神作紹道副会長、酒井泰寛副会長、倉島隆行副会長、原知昭事務局長の5人が、第21期全国曹洞宗青年会のご挨拶として大本山永平寺に拝登いたしました。

当日は福山諦法猊下にお目通りが叶い、三役一同で全国曹洞宗青年会名誉総裁である猊下に拝問させていただくことができました。猊下より「次代を担う青年僧として、復興支援をはじめ頑張つて欲しい」とのお言葉を賜りました。

引き続きの監院寮拜問では鬼頭尚峰副監院老師より激励のお言葉をいただき、気持ちも新たに身の引き締まる思いで永平寺を後にしました。

大本山總持寺
二祖峨山禪師献供諷經
全曹青も報恩の随喜

「平成27年度 禅文化学林」は、大本山總持寺二祖峨山留碩禪師様の六五〇回大遠忌に当たる勝縁により、神奈川県横浜市鶴見区の曹洞宗大本山總持寺での開催となりました。全国曹洞宗青年会(以下、全曹青)は、この勝縁への感謝と、峨山禪師様に対する報恩の思いを込め、平成27年10月18日午前

9時30分から厳修された「二祖峨山禪師献供諷經」で、安達瑞樹会長を導師に、各管区理事、加盟青年会員、全曹青参加者が法要に随喜させていただきました。

午前8時30分、精進料理フェスタの準備を終えた全曹青参加者や出品関係者、各地から法要随喜の為に参集された加盟青年会の計70人ほどが總持寺紫雲臺「相見の間」に集合。安達会長挨拶、本山側を代表し乙川映元監院老師のご挨拶と諸注意伝達の後、大祖堂に移動いたしました。堂内には既に700人を超える一般参列者がいられており、法要前には全曹青の原知昭事務局長から法要の意義についてご紹介し、参加者も共に法要と祈りを捧げました。

理事・評議員と三役が両班に立ち、安達会長は導師として堂行、御先導師の方がたに導かれ大祖堂正面に進み、報恩の思いを込め蜜湯、食、菓、茶を峨山禪師様にお供えし、心を込めて礼拝をいたしました。その後、妙法蓮華経普門品を行道説誦し、全員が須弥壇正面の香炉で焼香をいたしました。峨山禪師様が大切にされた「相承」への思いを随喜者一同深く心に刻みました。



伝供を受ける安達会長





子どもを対象とした事業の報告（奈良県子ども緑蔭禅）

執行部会・理事会・ 臨時評議員会を開催

曹洞宗檀信徒会館／築地本願寺

平成27年11月26日午後1時30分から曹洞宗檀信徒会館5階研修道場で、第5回執行部会が開催されました。翌日に控えた理事会、臨時評議員会に向けて、各委員会の中間報告などを精査いたしました。

翌27日には、築地本願寺第二伝道会館2階大講堂に会場を移し、第4回理事会、災害復興支援部研修会、臨時評議員会が行われました。

午前8時30分からの理事会では、前日の執行部会に続いて各議題の精査を行うとともに、ネパール地震被災地支援と禅文化学林についてスライドショーでの報告がありました。

正午過ぎからは、築地本願寺「日本料理紫水」内個室で次期会長選考委員会が行われました。

午後1時から災害復興支援部が行った研修会は、「子ども支援の現場から学ぶ子どもとの関わり方」子どもを尊重するとはどういうことか？ 子どもの権利条約から学ぶ」と題し開催されました。

最初に、今年度の子どもを対象とした「子ども自然ふれあい広場」「子ども緑蔭禅」、また浄土宗青年会さまの活動報告の報告が行われました。

続いて、江戸川子どもおんぶず理事・齋藤洋子氏、同事務局長・青木沙織氏を講師にお招きしての研修が行われました。国連で採択されている「子どもの権利条約」について、概要や条文の説明をいただいた後、参加者は実際に条文を読み込み、条文内の主語と述語の関係を、単語を色分けするなどの方法を用いて学びました。日頃を意識して手にすることの少ない「子どもの権利条約」を読むことで、私たちが実際に子どもたちと接する上での、理解や配慮について考えられる良い機会になったのではないかと感じられる研修となりました。

午後4時から行われた臨時評議員会では、開会に先立ち全日本仏教青年会の東海林良昌理事長からご挨拶をいただきました。

会議では、各委員会中間報告、会計中間報告などをご審議いただき、議事終了後は多くの評議員様からご報告やご案内があり、活気に満ちた会となりました。

条文を参究する参加者



理事会で質問される岸管区理事



臨時評議員会での委員会中間報告





災害復興支援部 第3回会議を実施

福島市支援室分室

平成27年12月11日午後1時から、福島県福島市の曹洞宗東日本大震災復興支援室分室（以下、分室）を会場に、全国曹洞宗青年会復興支援部会議が開催され、分室の皆様、曹洞宗福島県青年会様、全曹青から計17人が参加し、議論を重ねました。

ストックヤードについての話し合い及び、ボランティア基金運用について、平成28年の東日本大震災慰霊法要と平成29年の7回忌慰霊法要、そして全日仏青40周年記念事業や外部協働団体との連携確認、分室との合同研修会の検討、年末鍋行茶などについて話し合いを行い、一層の結束を確認いたしました。

福島に笑顔を運ぶ 年末鍋行茶を開催

福島県伊達郡国見町

福島県伊達郡国見町の大木戸ふれあいセンターで平成27年12月22日、年末鍋行茶を開催しました。未だ仮設住宅での生活を余儀なくされている方がたをご招待し、楽しいひと時を過ごしていただくとの願いで企画したもので、4回目となる今年も「これがないと年を越せない」という皆様からの声

を励みに、全国から集まった青年僧侶が料理に腕を振りました。

午後4時過ぎ、仮設住宅からの参加者をお迎えし、来賓の方がたにスタッフを合わせて70人超が集合。国見町社会福祉協議会の朝内氏と全曹青・安達会長の挨拶の後、貝田地区会長の乾杯発声により鍋行茶が始まりました。司会を務めた災害復興支援部アドバイザーの伊藤師は、干支にちなんで猿の着ぐるみで登場。会場には全国から持ち寄られた地酒や郷土料理が並びました。メインの鍋は毎年好評の秋田「きりたんぼ鍋」に加え、兵庫の郷土料理「ぼたん鍋」、愛知から「牡蠣鍋」の3種類が用意され、参加者は食べ比べ・飲み比べ。青年僧侶も一緒に美味しい鍋を囲み、お互いの地元の話、現在の生活の話など、和気あいあいとした雰囲気では進んでいきました。

余興のプレゼント抽選会の後、地元の日本舞踊グループ「扇ゆりの会」が花笠踊りの優雅な舞いを披露してくださいました。続いて安達会長のギター伴奏による参加者全員の合唱。「上を向いて歩こう」、「幸せなら手をたたこう」、「世界に一つだけの花」の3曲を歌い、僧侶のアドリブによる振り付けも相まって会場は笑い声にあふれました。最後は分室の久間主事より閉会の挨拶があり、お土産をお渡しして終了となりました。

おもてなしの心と参加者の皆様の暖かさにより、2時間での解散が名残惜しく感じるほどに楽しいひと時となりました。





2015年4月28日にネパールで発生しました大地震の支援に、去る11月18～22日にかけて、全日本仏教青年会の東海林良昌理事長をはじめ全国浄土宗青年会から3人、全国曹洞宗青年会から、安達瑞樹会長をはじめ6人、計9人にて現地での活動を行いました。

今回の目的は、現地の現状把握とともに、被災した子どもたちが通う小学校への訪問や、日本ではあまり報道されていませんが、地震後に発生した洪水により被害を受けた小児病院へ慰問し、皆様からお預かりしました義援金をお渡しするとともに、被災した子どもたちへ日本から持参した300個のウォーターボトルを渡すことです。

地震発生から7ヶ月経った街の様子は、復興には程遠い状況でした。その理由として、地震発生以前からインフラ整備が遅れており、首都のカトマンズでさえ、舗装されていない道路が数多く見受けられます。家屋やホテル等の建物は、鉄骨にレンガという構造が多く、倒壊した建物の建て直しにもその方法が続けられており、物資の不足とともに、ほぼ人力になりますので多くの時間を要しています。



全曹青ネパール地震 災害支援活動報告



加えて、2015年9月に制定された新憲法により情勢が不安定になっている事があります。今までネパールに入ってくる燃料や物資は、多くが隣国のインドから輸入していました。しかしながら、インドにとってその新憲法は不都合な内容だった為、国境では物資を運ぶトラックの通行が困難になり、ネパールでは燃料がかなり不足している状況です。実際、渡航した時点でガソリン1リットルが日本円で約600円という高値で取引されているとの事でした。また、調理に使うガスが不足している為、多くの店で薪を使って料理をしている姿が見受けられます。

しかしながら、現地の方がたによりますと、人びとの精神面は徐々に以前の様に戻ってきているとの事で、今回、ウォーターボトルを寄贈しました3箇所の小学校では、元気いっぱいな子どもたちの笑顔が見受けられました。

今後も全国曹洞宗青年会としましては、全日本仏教青年会と協働し、特に被災した子どもたちに対し支援活動を継続して参りますので、皆様には引き続きご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

また、今回の活動日程が決まりましたら皆様にご案内させていただきますので、是非とも一度ご参加いただき、現地の状況を肌で感じていただきたく存じます。

文／国際委員長・栖川直道

加盟 団体 REPORT



中部：出張！駆け込み寺



東部：お寺 de 精進料理教室・坐禅体験

第39回東海管区曹洞宗青年会静岡大会 『宝珠在掌』

平

成27年10月29日、第39回東海管区曹洞宗青年会大会が静岡県第一宗務所青年会が主管となり、静岡県焼津市の焼津グランドホテルで開催されました。

今大会は「みほとけの心」という宝の玉は一人ひとりの掌にある」という『宝珠在掌』をテーマに掲げ、衆生に寄り添い、人それぞれに持つ宝珠を輝かせるために青年僧侶として何ができるかを考え行動し、相互に研鑽することを通して、現代社会における僧侶としての役割を学ぶことを目的として開催されました。

今大会を開催するに当たり、一般の皆様にもどのようにしたらお寺を身近に感じることができるとかを考え、静岡県第一宗務所青年会の東部、中部、西部の3地区でそれぞれの企画を開催しました。

まず、東部地区では『お寺 de 精進料理・坐禅体験』と題し、9月10日に静岡県富士市保泉寺様において開催しました。この企画には、30人の方が参加し、参加者は季節を感じる食材を使った精進料理を味わい、坐禅の体験、法話の聴講をしました。

また、中部地区では『出張！駆け込み寺』と題し、9月13日に静岡駅前のレンタル会議室で企画を開催しました。この企画では、管内布教師による法話を聴講できるスペース、椅子坐禅ができるスペースおよび僧侶

と気軽に話ができるカフェスペースを設け、お寺を離れた街中における布教活動を行いました。

そして、西部地区では『ココロとカラダに効くお寺の休日』親子で楽しむヨガ・坐禅』と題し、9月19日に静岡県藤枝市宗乗寺様で開催しました。この企画には、親子合わせて170人ほどが参加し、ヨガ体験や喫茶タイム、地元青年僧侶が所属する劇団寺子屋による人形劇などを楽しみました。

加えて、全体企画として一般の皆様と青年会員が色紙に般若心経の指定された漢字一文字を書き、それをつなぎ合わせて般若心経を完成させました。以上のように各地区で企画を行い大会当日を迎えました。大会当日は、大般若心経をステージに掲げ記念法要を行い、参加者360名で般若心経を誦しました。ゲストに政治哲学、宗教論、サブカルチャー分析を主軸とした評論活動をテレビ、新聞、雑誌などで行われている宮崎哲弥氏をお招きして、『現代社会と仏教』と題した講演をいただきました。

その後、各地区で行った事業の報告会を行いました。大会は『宝珠在掌』という大会テーマに基づき、現代社会における僧侶としての役割を見つめなおす大会として盛況のうちに終わりました。

文／大会実行委員長・柴田英憲

全体：記念法要



西部：ココロとカラダに効くお寺の休日



『喝』 第40回記念曹洞宗青年会東北地方集会岩手大会

平 成27年11月4日、メトロポリタン盛岡NEWINGで『第40回記念曹洞宗青年会東北地方集会岩手大会』が開催され、東北各県から180人を超える青年僧侶が参集されました。

午後1時から開催された記念式典では、佛祖諷経の後、天野大真東北管区理事、恵津森哲夫大会実行委員長（岩手県曹洞宗青年会会長）から主催者側のご挨拶がありました。

続いて来賓を代表し、高橋哲秋曹洞宗東北管区教化センター統監、海野義清曹洞宗岩手県宗務所長のご挨拶があり、続いて全国曹洞宗青年会安達瑞樹会長からご挨拶と祝辞を述べました。高橋統監からは、第1回大会テーマ「魂との出会い」から、自らの生き方を仏道に照らし合わせる、自己自身としての「求道」の必要性について青年僧侶に語りかけておられました。

その後、『誓願文』を満場一致で採択しました。この中で「宗侶として大風大火大水の三災が消せるを祈り、修証不二、禪戒一如の体現者として布施、愛語、利行、同事を實踐し、ときには愚の如く悠大な心で、ときには魯の如く篤実に展開していくことを誓うものであります（原文から引用）」と宣言し、参加者一同で思いを共有し誓いを新たにされていました。

式典の最後に次回開催県を宮城県にするとの発表に続き、大会実行委員長の絡子が恵津森実行委員長から天野理事へ、そして宮城県曹洞宗青年会の北村暁秀会長に手渡されました。

午後3時からの記念講演では、青森県恐山菩提寺院代の南直哉老師から「授戒の現代的問題性〜現代における宗門の根本問題」と題しご講演をいただきました。

午後4時30分からは、岩手県出身のシンガーソングライター松本哲哉氏による記念公演が行われ、地元岩手での音楽活動や東日本大震災後の炊き出しキャラバンに尽力された松本氏の音楽が、岩手大会に彩りを加えました。

文／広報委員長・宮人真道

南直哉老師の記念講演



天野東北管区理事の挨拶



記念公演で演奏する松本氏



『誓願文』を全員で奉読

第38回中国曹洞宗青年会岡山大会

『進め！アボットさん』—お寺の未来について考える—

平

成27年11月4日・5日、第38回中国曹洞宗青年会岡山大会を岡山市で開催いたしました。この度は、岡山県曹洞宗青年会が主管となり、『進め！アボットさん』—お寺の未来について考える—と題して一昨年より準備をいたしました。

初日は、松本師に「お寺の必須条件」と題して講演をいただきました。人口減の中で、家族単身化・多様化する価値観、継承されにくいお寺社会、10年後には、寺院住職減、運営モデルの変化、お寺は選ばれる時代になるのではないかと。そうした中、お寺を木に例えると、見える部分はお寺の境内、財産等の建造物であり、見えない根っここの部分は、お寺を取り巻く檀家・総代・寺族・地域住民となる。根っこ無形の価値観をよく理解する必要があるのだと話されました。これからのお寺の必須条件として、住職・寺族の器を広げる・組織の透明性信頼性の向上、コミュニケーション・本業の磨き上げ・宗教空間の環境整備を挙げられました。我々が根っここの部分を大切にできたかを改めて考えさせられる講演でした。

また、岡山県出身のキングレコード童謡担当ディレクターをされておりました長田暁二師に「歌に潜む仏教のこころ」と題して、お話をいただきました。歌詞から様々な仏教的内容、実際にはこの歌には、こういう思いが描かれているのですよと、熱く語られました。お歳も80半ば、出家して仏門に帰依した心で、独特の音楽評論をいただきました。

2日目は、実践としてワークショップを行いました。10年、20年後のお寺はどうなっているか？ 将来を見据えて何を変えていくべきか？ そのために重要となる行動はなにか？ ハードルは？ どのようにクリアしていくのか？ という課題をグループで意見交換しました。このワークもお寺を運営していく一歩となる内容でありました。

最終的に100人の中国地方の青年会員の皆様に参加いただきました。本大会の意義を踏まえた青年僧の皆様が、結果云々、これからのお寺の未来について考え、実践していただいた時に、今回の大会が大きな意味を持つものと思います。

近年、少子高齢化・過疎化・宗教離れ・後継者不足といった言葉をよく耳にするようになってきました。これからのお寺、住職の

在り方について改めて考えてみる必要性があるのではないかと。昔は、地域の中心的な存在であったお寺も今は……。今大会は講師に浄土真宗本願寺派の松本紹圭師をお招きして講演をいただきました。若手僧侶にお寺の経営を指南する「未来の住職塾」とウェブサイトを「彼岸寺」で、お寺から日本を元気にする活動をされておられます。

初日は、松本師に「お寺の必須条件」と題して講演をいただきました。人口減の中で、家族単身化・多様化する価値観、継承されにくいお寺社会、10年後には、寺院住職減、運営モデルの変化、お寺は選ばれる時代になるのではないかと。そうした中、お寺を木に例えると、見える部分はお寺の境内、財産等の建造物であり、見えない根っここの部分は、お寺を取り巻く檀家・総代・寺族・地域

最終的に100人の中国地方の青年会員の皆様に参加いただきました。本大会の意義を踏まえた青年僧の皆様が、結果云々、これからのお寺の未来について考え、実践していただいた時に、今回の大会が大きな意味を持つものと思います。

文／岡山県曹洞宗青年会会長・加藤清文

【注釈】アボットとは／英語で修道院長と訳される。英語圏で道を修める修道院は教会であった。全ての寺院は修行道場であるため、広い意味でアボットが寺院の長である住職を指す意味に用いられている。



文／岡山県曹洞宗青年会会長・加藤清文

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。

この度もご協力いただき誠に有難うございました。



三重県曹洞宗第一宗務所様より
ご寄付いただきました

平成27年11月19日、三重県曹洞宗第一宗務所（三重県松阪市）で第一宗務所管内の御寺院様方から全曹洞宗ボランティア活動資金として浄財をご寄付いただきました。

この浄財は、平成27年の台風18号に伴う豪雨で浸水や土砂災害など各地に大きな被害が出た後、県内のご寺院様を中心に集められたもので、武内秀道教化主事様から「被害に遭われた方がたへの支援活動に当ててください。これからも青年会によるボランティア活動を応援しております」と励ましのお言葉をいただきました。

全曹洞宗ではお預かりしました浄財を被災地への義援金に当てさせていただくとともに、各青年会と連携しながらボランティア活動を継続して行っております。

ボランティア基金感謝録

東京	青松寺	様	静岡	靈山寺	様	長野	泉龍院	様	青森	光昌寺	様
東京	青松寺	様	静岡	清富寺	様	石川	延命寺	様	山形	永蓮寺	様
東京	嶺雲寺	様	愛知	洞牧寺	様	富山	光臺寺	様	山形	昌庵寺	様
東京	清巖寺	様	愛知	全久院	様	新潟	妙雲寺	様	山形	養千寺	様
東京	慶雲院	様	愛知	吉祥寺	様	新潟	普光寺	様	秋田	東光寺	様
神奈川	泉光寺	様	愛知	青原寺	様	新潟	長命寺	様	秋田	倫勝寺	様
神奈川	善光寺	様	愛知	成福寺	様	新潟	大慈寺	様	秋田	補陀寺	様
神奈川	本覚寺	様	愛知	智光院	様	福島	齋藤光輝	様	秋田	圓福寺	様
埼玉	豊泉寺	様	愛知	宝珠院	様	福島	石雲寺	様	秋田	洞心会	様
埼玉	永福寺	様	三重	安心寺	様	福島	正法寺	様	秋田	円通寺	様
埼玉	光秀寺	様	京都	久昌寺	様	福島	小国寺	様	秋田	蚶満寺	様
茨城	廣徳院	様	京都	徳運寺	様	福島	大同寺	様	秋田	長泉寺	様
千葉	龍心寺	様	兵庫	禅昌寺	様	福島	法輪寺	様	北海道	北斗会	様
千葉	慶林寺	様	兵庫	向榮寺	様	福島	吉祥院	様	北海道	延命寺	様
千葉	中滝寺	様	広島	雲龍寺	様	福島	松前寺	様	北海道	達磨寺	様
千葉	満蔵寺	様	広島	吉祥寺	様	宮城	大永寺	様	北海道	照心会	様
千葉	宗胤寺	様	鳥取	正音寺	様	宮城	城國寺	様	北海道	孝徳寺	様
山梨	白元寺	様	鳥取	吉祥寺	様	宮城	長観寺	様	北海道	空知青年会	様
静岡	孤雲寺	様	島根	慶用寺	様	岩手	青山寺	様	北海道	神谷俊英	様
静岡	宿蘆寺	様	島根	興源寺	様	岩手	清水寺	様	北海道	北海道第2宗務所第2教区青年部	様
静岡	玉泉寺	様	愛媛	西禅寺	様	岩手	正傳寺	様	北海道	掬水会	様
静岡	正泉寺	様	愛媛	長命寺	様	青森	聖福寺	様	北海道	禅心会	様
静岡	高林寺	様	熊本	国照寺	様	青森	澄月寺	様			
静岡	東林寺	様	長野	陽泰寺	婦人会	青森	乗照寺	様			

ネパール地震支援金

富山県 光臺寺 様

[贊助費淨納御芳名簿]

平成27年10月1日～12月18日取扱い分

◆東京都

6 光寶寺 様
56 嶺雲寺 様
151 静勝寺 様
177 清巖寺 様
199 大松寺 様
333 雲慶院 様
駒澤大学高等学校
鈴木純行 様

◆神奈川県第1

285 泉秋寺 様

◆神奈川県第2

1 本覺寺 様
27 東林寺 様
147 宗祐寺 様
390 善光寺 様

◆埼玉県第1

110 香林寺 様
114 東陽寺 様
190 廣徳院 様
426 昌楽寺 様

◆埼玉県第2

256 豊泉寺 様
336 永福寺 様

◆群馬県

99 龍傳寺 様
171 久昌寺 様
194 善宗寺 様
217 正泉寺 様
315 利濟寺 様

◆栃木県

51 豊栖院 様
94 天性寺 様

◆茨城県

32 龍泰院 様
113 常見寺 様
182 龍心寺 様
191 法光寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
21 観音寺 様
24 仁守寺 様
29 慶林寺 様
68 超林寺 様
121 宝林寺 様
194 中瀧寺 様
272 永泉寺 様

◆山梨県

555 自元寺 様

◆静岡県第1

34 洞慶院 様
109 玉泉寺 様
175 靈山寺 様
388 林叟院 様
388 林叟院 様
464 正泉寺 様

◆静岡県第2

334 清富寺 様
362 福泉寺 様

◆静岡県第3

676 孤雲寺 様
832 善勝寺 様
1273 東林寺 様

◆静岡県第4

1099 宿蘆寺 様

◆愛知県第1

5 功德院 様
7 全香寺 様
101 成福寺 様
108 香積院 様
120 宝珠院 様
127 龍潭寺 様
158 秀伝寺 様
216 青原寺 様
292 高雲寺 様
313 長松寺 様
336 弥勒寺 様
607 林宗寺 様
625 宝積寺 様
635 永澤寺 様
1191 智光院 様

◆愛知県第2

813 全久院 様

◆愛知県第3

438 吉祥寺 様
572 松雲院 様

◆岐阜県

38 最勝寺 様
217 本覚寺 様

◆三重県第1

24 一心院 様
36 法安寺 様
83 涼泉寺 様
240 安心寺 様
269 大蓮寺 様

276 地藏院 様

◆三重県第2

389 海岸寺 様

◆京都府

222 久昌寺 様
386 徳運寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

26 天徳寺 様
88 正俊寺 様
104 拾翠寺 様

◆兵庫県第1

14 禅昌寺 様
287 向榮寺 様
403 善福寺 様

◆兵庫県第2

173 瑞雲寺 様
188 興禅寺 様
225 大雲寺 様

◆岡山県

59 観泉寺 様
130 蓮性寺 様

◆広島県

34 吉祥寺 様
46 雙照院 様
102 潮音寺 様
175 雲龍寺 様
179 神宮寺 様

◆鳥取県

32 吉成寺 様
180 正音寺 様
82 吉祥院 様

◆島根県第1

332 興源寺 様

◆島根県第2

44 吉祥寺 様
63 龍覚寺 様
66 浄心寺 様
98 法船寺 様
157 慶用寺 様

◆愛媛県

93 長命寺 様
113 西禅寺 様
146 興雲寺 様

◆福岡県

28 桂木寺 様
158 報恩寺 様

◆長崎県第1

42 西方寺 様
78 宝泉寺 様

◆佐賀県

108 光明寺 様

◆熊本県第1

60 含蔵寺護寺会 様
48 神照寺 様

◆熊本県第2

79 向陽寺 様
88 明德寺 様
108 潮音寺 様
122 国照寺 様

◆宮崎県

54 善栖寺 様

◆鹿児島県

14 絃昭寺 様

◆長野県第1

38 耕雲庵 様
57 長秀院 様
65 柳原寺 様
66 宝蔵院 様
71 苔翁寺 様
99 天照寺 様
121 浄光庵 様
147 徳應院 様
370 日輪寺 様
580 観音庵 様

◆長野県第2

375 龍雲寺 様
386 西福寺 様
389 宗福寺 様
400 長久寺 様
441 雲龍寺 様
507 泉龍院 様

◆福井県

47 瑞祥寺 様
48 洞雲寺 様
108 玉祥寺 様
232 長泉寺 様
272 洞善寺 様
291 福聚寺 様

◆石川県

120 妙玄院 様
123 延命寺 様
133 慈眼庵 様

◆富山県

206 慈眼寺 様

◆新潟県第1

311 大慈寺 様
358 円光寺 様
380 妙雲寺 様
445 永林寺 様
453 龍澤寺 様
477 龍泉院 様

◆新潟県第2

681 総源寺 様

◆新潟県第3

514 長命寺 様
535 普光寺 様

◆新潟県第4

53 英林寺 様
112 常安寺 様
259 長楽寺 様

◆福島県

41 石雲寺 様
113 圓照寺 様
209 吉祥院 様
226 常隆寺 様
352 大同寺 様
461 正法寺 様
462 松前寺 様

◆宮城県

102 吉祥寺 様
113 繁昌院 様
149 喜松院 様
177 珠光寺 様
202 皆傳寺 様
212 祥雲寺 様
319 大永寺 様
380 長観寺 様
414 虎溪寺 様
440 城國寺 様

◆岩手県

14 正傳寺 様
17 清水寺 様
23 清雲院 様
111 西泉寺 様
123 寶城寺 様
233 玉泉寺 様

◆青森県

20 盛雲院 様
27 蘭庭院 様
89 耕田寺 様
100 澄月寺 様
101 聖福寺 様
103 光昌寺 様
113 正洞院 様

◆山形県第1

24 養千寺 様
113 洞興寺 様

◆山形県第2

372 昌傳庵 様
393 館山寺 様

◆山形県第3

540 圓秀寺 様
639 慶全寺 様
718 長測寺 様
722 永蓮寺 様
734 東光寺 様

◆秋田県

17 補陀寺 様
96 円通寺 様
126 蚶満寺 様
157 香積寺 様
162 祥雲寺 様
185 永藏寺 様
252 長泉寺 様
302 天昌寺 様
313 立昌寺 様
321 鏡得寺 様
323 恩徳寺 様
326 圓福寺 様

◆北海道第1

45 延命寺 様
79 徳源寺 様
94 曹源寺 様
96 観音寺 様
504 達磨寺 様

◆北海道第2

241 孝徳寺 様

face of 全曹青



委員長
宮入真道
曹洞宗長野県第一青年会

広報委員会は、加盟会員の皆様や一般の方がたへの情報発信を主な目的としています。

広報誌『SOUSEI』や、『曹洞宗報』内『SOUSEI号外』ページの記事執筆・編集、またインターネット上ではホームページ『般若』及び『全曹青facebookページ』の運営や、各種お問い合わせへの対応を行っております。

時には近隣の、時には数百キロ離れた場所での取材に赴き、撮影や取材をした後、『SOUSEI』の記事や『般若』の記事を書いていきます。また、『全曹青facebookページ』では行事開催当日の様子をアップすることで、速報性の高い情報発信を心掛けています。私たちが発信した情報の

感想を、是非とも広報委員会にお寄せください。全曹青参加者を通じて、またはインターネットからでも可能です。いただいたご意見を元に、情報発信の充実に努めてまいります。



副委員長
西古孝志
いずも曹洞宗青年会

今期もご縁をいただき、いずも曹洞宗青年会から参加し、広報を担当することとなりました。様々な出逢いやつながりを一つひとつ大切にしながら伝えることに精進してまいります。よろしくお願いたします。



副委員長
鬼頭大輝
曹洞宗岐阜県青年会

前期より『SOUSEI』に関わらせていただいております。最近では何かしらの文章を見ると「誤字・脱字」

広報委員会紹介

を無意識に探している自分が居ます。全国に発送する『SOUSEI』ですので、良くも悪くもこの「クセ」を治す必要は無さそうです。今後間違いの無いように努めさせていただきます。



委員
横山岳洋
福岡県曹洞宗青年会

前期に引き続き今期も福岡曹青より全曹青の広報委員会に参加しております。18期で初めて全曹青に参加したときには、まさか3期も参加することになるとは思ってもいませんでした。年齢的にも今期で最後のお勤めになると思いますので悔いの無いよう広報活動に取り組みたいと思います。



委員
井上一洸
四国地区曹洞宗青年会

今期も広報委員として参加させていただきます。前期よりもフットワークを軽くと思っております。そして、様々なご縁に出会えますように。よろしくお願いたします。



委員
柳澤隆徳
曹洞宗長野県第一青年会

山奥の自坊から広報委員会に参加させていただきました。2期目になりました。会議や取材に行く度に、今日は何を食べようかと考えています。前期より体重が増えました。様々な人と出会い、笑顔もかなり増えました。今期もよろしくお願いたします。



委員
織田秀道
曹洞宗北海道第二宗務所青年会

大農業地域の十勝からやってきました。まだまだ不慣れですが、

委員長「大丈夫。大丈夫ではないけどやってみよう。ちは何とかなる」の言葉を胸に、粘り強く精進します。厳しい冬を土中で過ごし、味わいを増す春堀りの長芋のように……。



委員
長尾大乘
曹洞宗静岡県第一宗務所青年会

静岡第一宗務所青年会から参加させていただきました。すでに伝えることの難しさを感じておりますが、わかりやすく皆様に伝えられるように精進していきたいと思っております。2年間よろしくお願いたします。



委員
閑野文隆
曹洞宗埼玉県第二宗務所青年会

今期より広報委員会に参加しました。会議に出たり取材したり大変だと思いますが、色いろと学び、精一杯頑張りたいと思います。宜しくお願いします。

全国曹洞宗青年会 電話相談事業 『観世ぶおん』

青年僧侶による電話相談

ご家族のことや仕事や生活のことなど
誰にも言えないあなたの不安や悩みを、私たちが受けとめます。
どんな些細なことでも構いませんので電話にてご相談ください。

毎週日曜日の夜 22:00-24:00

「個人の秘密」「ご相談の内容」「個人情報」は厳守いたします。相談は無料です(通話料のみ)。*匿名でのご相談も可能です。

電話番号① 080-1546-7464 | 電話番号② 080-1547-5646



委員
藤井崇文
奈良県曹洞宗青年会

大阪に生まれ奈良で新寺建立し、住しております。まわりの方に「お坊さん」として育てて貰って今があり、これからはさらに全曹青という場に育てていただきました。願っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

連載 伝え方のデザイン

第2回

『精進料理』の 伝え方

曹洞宗八屋山普門寺副住職

吉村昇洋

今号の特集に合わせて、『精進料理』について述べてみたい。私は宗門の機関誌『禅の友』での連載のほか、テレビ、ラジオ、書籍、各種イベントなどで精進料理を媒介に禅仏教を伝える活動を行っている。

そのお陰か、宗門内からも料理教室の依頼が舞い込んでくるようになったが、多くのケースで「これまでやってきた料理教室が停滞気味で、新たな風を送り込みたい」との要望をいただく。では、これまでどのようにされていたのか聴くと、僧侶指導のもと料理と一緒に作り、五観の偈をお唱えして、ワイワイ食えるというもので、少し聞いた感じでは楽しそうなものが多い。にもかかわらず停滞気味だというのだ。

こうしたイベントが、単発なのか継続なのかでアプローチも異なるところではあるが、停滞というからには継続すること前提にしており、リピーターの満足度を上げるような仕組みが必要となる。私が2012年から自坊で行っている『広島精進料理塾』では、月に4回開催で年間100人

(延べ人数で200人強)ほどの方が受講され、半数がリピーターであることを踏まえれば、少しは参考になるのではないかと思うので、そのプログラムを紹介したい。

①護法韋駄尊天前にて開講諷経、②作法に則って調理、③作法に則って食事(五観の偈/食中の作法/洗鉢)、④片付け、⑤アンケート記入と、非常にシンプルな構造である。まず、韋駄天さんの前で般若心経を唱えて、心のモードを切り換えたのち、『典座教訓』を踏まえて調理をし、『赴粥飯法』から作法を抜き出して実践、食後に皆で片付けて、最後に塾の満足度を測るためにアンケートに記入してもらって終了という流れだ。

この中でも、特に私が重きを置いているのが、③の作法に則った食事である。というのも、活動の初期に浮上してきた「野菜料理と精進料理の違いとは何か?」という疑問の答えがここにあるからだ。

世の中で一般的な精進料理の概念は、ほとんどの場合「僧侶が食べそうな料理」というものである。しかし、それでは「(五葷不使用の)野菜料理と何が違うのか?」と問われた時に、明確に答えることができない。

そして、あまり知られていないことだが、『大正新修大藏経』の中にこの「精進料理」の四文字を見つけることはできない。となると、仏教の教義というよりも、歴史が下るにつれ、仏教周辺文化の中で便宜的に使われるようになった造語なのだと推測できる。「精進」とは、サンスクリットの *vijaya* (ヴィーリヤ) の訳語で、仏道修行に励み努力する

ことを表しており、大乘仏教で重視される六波羅蜜(菩薩が行う六つの修行徳目)の一つにも数えられている。となれば、先の「(仏道修行に励む)僧侶が食べそうな料理」の他にもうひとつ、「仏道修行としていただく料理」という解釈もできることとなる。

つまり、目の前に運ばれて来たときには、まだただの野菜料理でしかないが、食べる人が五観の偈を念頭に作法に則って食事をする事で、初めて精進料理になるのである。しかし、私のようにわざわざ理論化せずとも、宗門の修行道場を経験した者であれば誰でも知っていることである。このように言えるのは、『赴粥飯法』や『典座教訓』の食に関するテキストを持つ曹洞宗ならではの強みと言って良いだろう。

こうして食べる側の行為によって「精進料理」の概念が成立するのであれば、受講者にそれを体験してもらってこそ、精進料理教室の意味があるというものである。私の場合は、5分間ほどしっかりと作法を実践していただいたあと、一人ひとりの体験内容を皆で共有し、今この自己と素直に向き合っていたり機会としている。

前号で、「仏の教えの何(What)をどのよう(How)に伝え、相手にとってこの教えがどのように機能するか?」が重要だと述べたが、修行道場と同じやり方でも良いし、一般の人に分かり易いようにカスタマイズしても良い。精進料理を通して、伝える側がどこに重きを置いて伝えたいのか明確にすることが大切なのである。



吉村師の新著『禅に学ぶくらしの整え方』が、オレンジページ社から1月17日に発売されました。修行経験を土台に、一般の方でも実践できる掃除・片づけの方法と考え方を紹介されています。

3.11 東日本大震災慰霊法要・行脚



各青年会の予定

【全国曹洞宗青年会】

東日本大震災から5年が経過しようとしていますが、復興には未だ遠く、東京電力福島第一原子力発電所の事故も含め現在進行形の問題であることを実感いたします。全国曹洞宗青年会では、全日本仏教青年会様、曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室様とともに、復興への誓いの場である福島県伊達市成林寺様境内『納経塔』前で速夜慰霊法要を厳修し、復興支援への決意を新たにいたします。

平成28年3月10日(木)

午後2時40分～ 黙祷、復興祈願・納経諷經

(全曹青主体)

慰霊供養諷經(全日仏青主体)

【宮城県曹洞宗青年会】

津波に襲われた沿岸部を中心に、被災された方がたの慰霊と、ご遺族の方がたの安心を目的に被災地慰霊行脚を修行します。主催の宮城県曹洞宗青年会ほか全国曹洞宗青年会の参加のもと大川小学校周辺を慰霊行脚し、地元ご寺院様とともに大川小学校で読経法要をお勤めします。

平成28年3月11日(金)

午後1時～ 慰霊行脚

了而 慰霊法要

【岩手県曹洞宗青年会】

隣県曹洞宗青年会会員にご加担いただき、県内各所で慰霊法要を予定しています。

平成28年3月11日(金)

午前10時～ 慰霊法要(釜石市・常楽寺)

午後1時～ 慰霊法要(山田町・龍泉寺)

【曹洞宗福島県青年会】

隣県曹洞宗青年会会員のもと、福島県の相双地区各所を巡り、慰霊法要を厳修します。あの日から5年が経ち、多くの被災地が少しずつ復興に進む中で、福島県においては原発事故の影響もあり、未だに震災当時の状況が手つかずに残る地域があります。今回の法要を通し、地震津波の爪痕、原発事故の影響の大きさを再認識する機縁といたします。

平成28年3月11日(金)

午前8時半～ 相双地区 各所における慰霊法要

3・11慰霊法要についてのお問い合わせ先

全曹青災害復興支援部事務局

080・1605・2976(担当: 城市)

shienzensousei@gmail.com

予定の詳細については、全曹青HP『般若』
<http://www.sousei.gr.jp>をご覧ください。

編集後記

広報誌『SOUSEI』内での限られたスペースの中で文章や写真を使い、想いを伝えることができるか、読んでもらえているかいつも不安です。時々いただける地元の御寺院様の「読んだよ」の一言が私を笑顔にしてくれます。そんな時私は必ず「ありがとうございます」と言います。この「ありがとう」という言葉は万能で、私は大好きです。しかし、どうしようもない感謝を表す時「ありがとう」という言葉だけでは足りないと思います。そんな時は態度や行動を合わせて示していくわけです。

言葉だけでは足りない事、文字や写真だけでは伝えられない事もあるかもしれません。ただ、広報誌『SOUSEI』は文字や写真以外に、様々な人の「想い」を載せて発行していると私は思っています。それが伝わるのが最大の喜びです。

(文/広報委員 柳澤隆徳)